コンセプト　「風景を纏うように暮らす。」

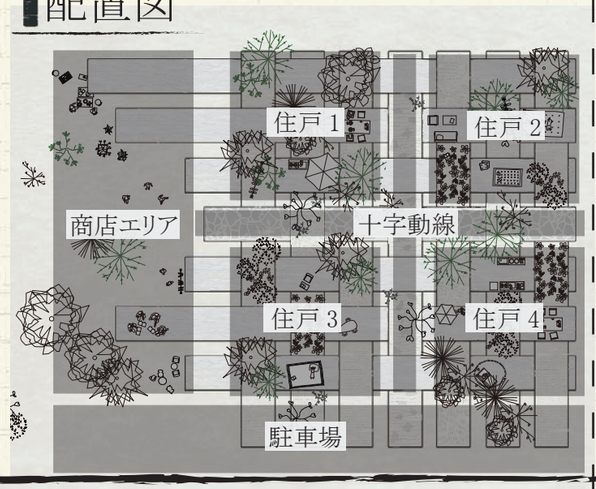
光、雪、季節の移ろい、風、音、、自然から要素を抽出して糸を紡ぐ。
壁、床、障子、、暮らすための機能を紡いでいく。
自然と住まいの糸を織り込んで生まれる１枚の布は日常を柔らかく包み込む。

古くから自然は人々の心を動かし、人と人を繋いできた。
コオロギの鳴き声が聞こえる。温かい木漏れ日が降り注ぐ。
お隣さんの肉じゃがの匂いに誘われる。
纏景の村では自然と人々がともに干渉し、風景を紡いでいく。

纏景の村

スタディ模型：自然と日常を織る

配置図



01, 纏景計画

▶ 光

斜面と中庭による採光は、
反射により柔らかい光となる

雪により反射光は増え、外への意識が増す

▶ 音

曲線を屋根とした部分では、
洞窟のような空間が
生まれ、一人の場が形成される

雪による吸音効果で、穏やかに過ごせる

▶ 空気

開口を大きくとるため、外気を取り入れ
自然な温度調節が可能

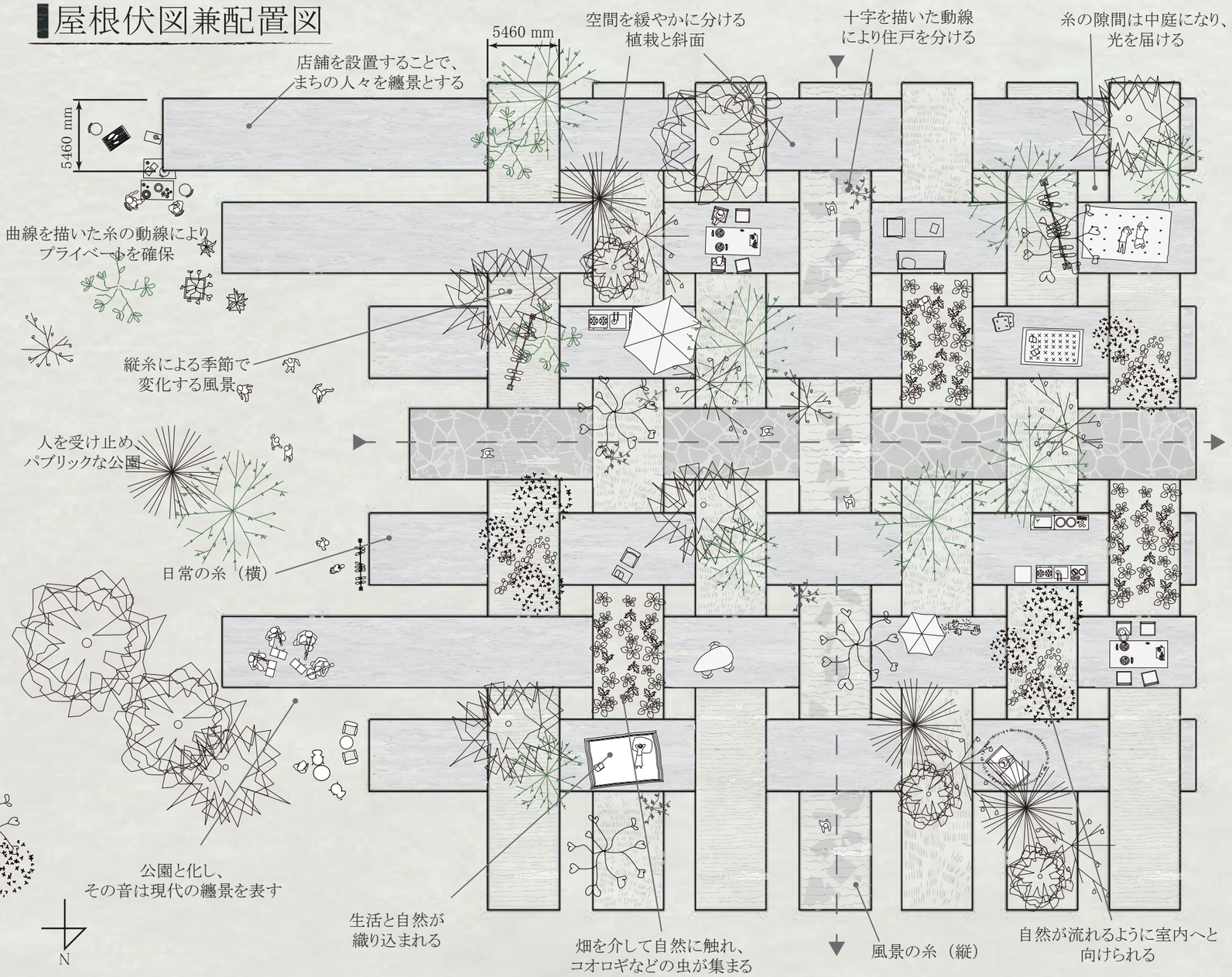
住戸同士で風景を共有し、借景を
誘発する

▶ 時間の流れ

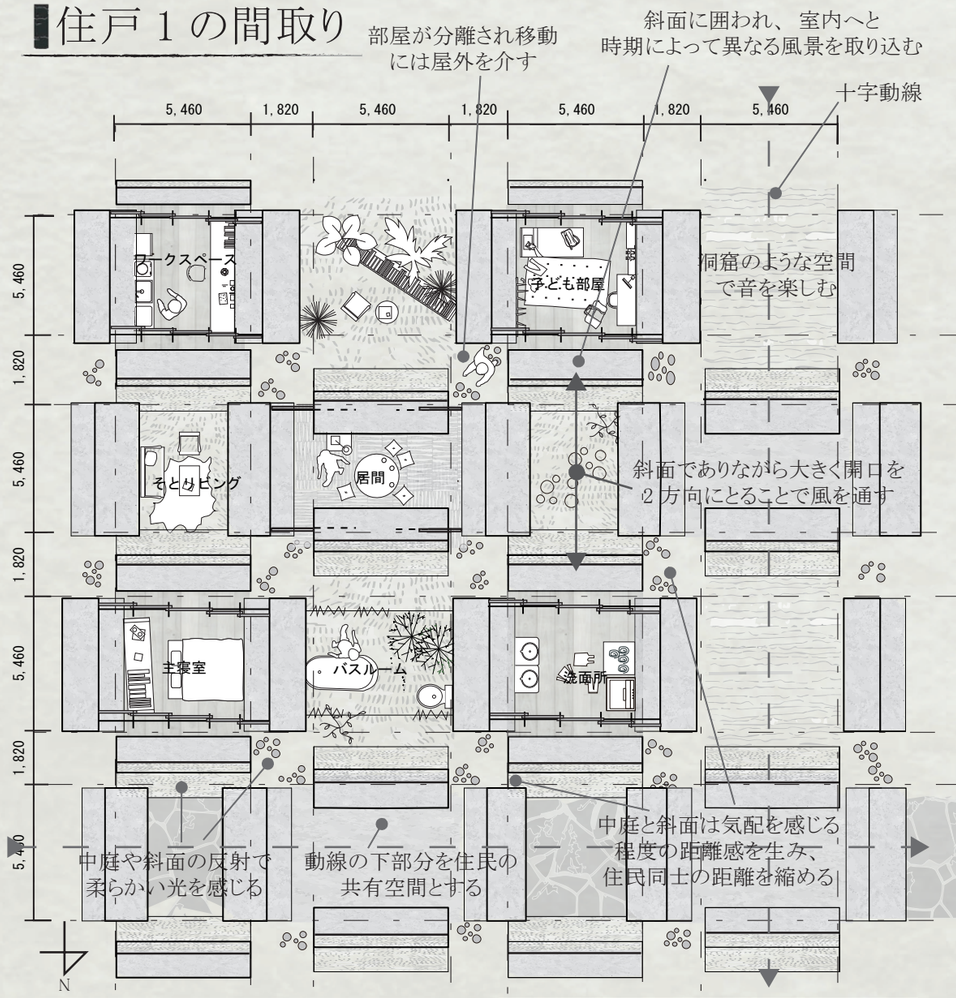
部屋移動に屋外を必要とすることで
季節を肌で感じる

斜面を彩る景色は季節を写す

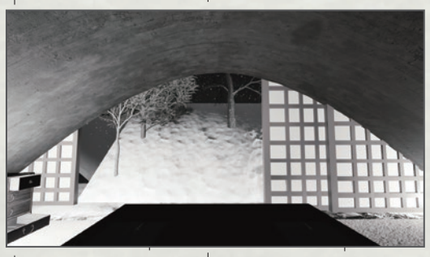
屋根伏図兼配置図



住戸１の間取り



風呂場から望む：風景に浸る



こたつから望む：風景に潜る